

ヴェルディ作曲 歌劇「ルイザ・ミラー」

190505

幕	場	場面	内容	分	主な歌う登場人物					見どころ
一幕 60分	序曲			5						
	1	身分違いを心配するミラー	チロル地方の小さな村で、ルイザ・ミラーは、村人たちに誕生日を祝ってもらっているが、恋人のカルロが来ていないのが気になっている。父ミラーは、カルロの素性がわからないので身分違いの結婚で娘が不幸になるのが、心配である。そこへカルロが現れたのでルイザは喜んだ。	15	ロドルフォ	ルイザ	ミラー			
	2		ミラーは、ヴァルター伯爵の秘書官であるヴルムから呼び止められ、1年前に約束したルイザとの結婚の履行を求められるが、ミラーはそっけない。ヴルムは、ルイザを愛している。ヴルムは、カルロが領主の息子ロドルフォであることをばらすので、ミラーは心配する。	10			ミラー	ヴルム		
	3	政略結婚させるヴァルター伯爵	ヴァルター伯爵は、ヴルムから、息子のロドルフォとルイザが愛し合っていることを告げられる。伯爵は、ロドルフォに、幼なじみのフェデリカ(オストハイム公爵未亡人)と結婚するよう命じる。野心を持たないロドルフォは、他に愛している女性が居ることをフェデリカに理解して貰おうとするが、フェデリカは、それを嫉妬に燃えて許さない。	15	ヴァルター伯爵	ロドルフォ		ヴルム	フェデリカ	ヴァルターの歌
4	ミラーはルイザに、カルロが実は伯爵の息子で身分の違いを明らかにし、諦めさせようとする。そこへロドルフォが現れ、ルイザに変わらぬ愛を打ち明けてしまう。そこにヴァルター伯爵が訪れ、「財産目当てで息子を誘惑するな。」とミラー親娘になじり、兵士に二人を連行するよう命じる。しかし、息子のロドルフォに、伯爵になるまでの悪業を暴くと脅され、逮捕を諦めおとなしく帰る。		30	15	ヴァルター伯爵	ロドルフォ	ルイザ	ミラー		
二幕 40分	1	ルイザの偽りの手紙と告白	村人たちは、ミラーがお城に連行された旨、ルイザに話す。そこへ伯爵の代理のヴルムが来て、「ルイザが本当に愛していたのはヴルムで、ロドルフォを愛したのは財産目当てであった。」という手紙を、ヴルム宛に書くのであれば父・ミラーは許されると告げる。 悩んだ末ルイザは、ヴルムの言うとおりに手紙を書く。ヴルムはこの手紙は自発的に書いたもので、また、城内で同様の証言をするよう約束させる。	15	ヴァルター伯爵		ルイザ	ヴルム	ルイザの歌	
	2	偽りの告白をするルイザ	ヴァルター伯爵の城の一室で、ヴァルター伯爵とヴルムは、先代を暗殺して伯爵になったという事実をロドルフォが感ずいているのではないかと恐れている。 また約束通りルイザが、ヴルムを愛していると告白するので、フェデリカは喜ぶ。	13	ヴァルター伯爵		ルイザ	ヴルム	フェデリカ	
	3	偽りの手紙を読むロドルフォ	城で農夫が、ルイザが書いた偽りの手紙をロドルフォに見せるために持ってくる。それを讀んだロドルフォは、裏切られたと激しく怒り、ヴルムにピストルで決闘を挑む。それに驚いたヴルムは空に向けてピストルを発射しただけで逃げ去る。ロドルフォは、駆け付けたヴァルター伯爵に、フェデリカと結婚すると告げる。	25	12	ヴァルター伯爵	ロドルフォ	ヴルム	ロドルフォの歌	
三幕 40分	1	故郷を離れるミラーとルイザ	ミラーが釈放され、家に戻ってきたので、ルイザを慰めていた村娘たちは家路につく。そのとき、ミラーはルイザが自殺を考えていることを悟る。父は自殺は神に対する大罪であると考えを変えるようにと説得する。ルイザは自殺を思いとどまり、明朝故郷を離れて旅に出ようということになる。	20			ルイザ	ミラー		
	2	抑制の利かないロドルフォ	抑制の利かなくなったロドルフォは、ルイザの家に侵入し、自分で水差し毒を飲みルイザにも飲ませる。 毒を飲んだことを知ったルイザは死を覚悟し、ロドルフォに今までの偽の手紙の経緯をすべて告白する。ロドルフォは、早まったことを後悔する。物音に気づいたミラーが部屋にやってくるがルイザは息絶える。さらにロドルフォは、ヴルムを刺し殺し、伯爵に「あなたの罪だ」と言って倒れ込む。	20	ヴァルター伯爵	ロドルフォ	ルイザ	ミラー	ヴルム	

(注)紙の音がするので、開幕中は、このA4紙をしまってください。